

BLUEBOY × GUNMA Location map

ロケ地マップ

私たちは、ずっとここにいた。

BLUEBOY



知られざる歴史がここにある。

ブルーボーイ事件

中川未意 前原 澪 中村 中 イズミ・セクシー 真田裕臣 大川裕史 秦平
渡川清彦 井上 肇 安藤 聖 岩谷健司 梅沢昌代 / 山中 崇 安井順平 / 錦戸 亮

監督: 飯塚花笑 脚本: 三浦海生 助監督: 飯塚花笑 音楽: 斎藤 正二
撮影: 戸澤 博子 (JSC) 照明: 飯田大輔 録音: 渡辺 文彦 美術: 小坂 隆太郎 監修: 大谷 直樹 編集: 菅 聡一
衣裳デザイン: 田中 亜由美 ヘアメイク: タナカ ミホ キュースタント: アドリスター 山下 美子 造形: 高野 佳子 制作: 劇団 華藤 孝子
プロデューサー: 遠藤 昌雄 企画: 山田 浩一郎 監製: 飯塚 博子 阿部 隆利 アシスタント・プロデューサー: 伊藤 江里加 宣伝: 青木 淳 浅野 佑大
配給: 株式会社 文化放送映像制作会 日本映画制作支援事業 前田 昌弘 山田 浩一郎 文化放送 青木 淳 飯塚 博子 阿部 隆利
制作: JINE 全 5 巻 全 10 巻

製作: アニメーション・フィルム・プロダクション (A.F.P.) 配給: 文化放送映像制作会 (A.F.P.) 制作: アニメーション・フィルム・プロダクション (A.F.P.) 配給: 文化放送映像制作会 (A.F.P.)

11.14

昭和の面影を色濃く残す 群馬で撮影された物語

1960年代、実際に起きた事件に基づき、差別と偏見に立ち向かった性的マイノリティの尊厳と希望を描く『ブルーボーイ事件』。その物語のロケ地となったのが群馬県です。撮影の舞台に群馬を選んだ理由、群馬の魅力などを作品製作のプロセスや見どころを交えて飯塚花笑監督に語っていただきました。

Profile — 飯塚 花笑 いいづか かしょう

群馬県出身の映画監督・脚本家。トランスジェンダーとしての経験をもとに、LGBTQ+や社会的少数者を温かく描く作品を多数制作。『僕らの未来』『フタリノセカイ』『世界は僕らに気づかない』などが高く評価され、国内外の映画祭で受賞歴もある。地元・群馬での制作活動も積極的に行っている。

『ブルーボーイ事件』を知った きっかけと映画化への経緯は？

映画の企画を探していた時、偶然、目にしたのがこの事件名。しかし、事件について記した文献がなかなか見当たらず国会図書館まで足を運びました。記述があった主な媒体は週刊誌。それを見て1960年代当時、性的マイノリティの当事者が社会的に厳しい状況下に置かれる中、自分のアイデンティティを表明して生きていた人たちがいたことに深く心を揺さぶられました。

その後、研究者が保管していた実際の裁判資料を拝見する機会に恵まれました。3人の証人たちの発言が一字一句綴られた記録からは、彼女たちの肉声が聞こえてくるようでドラマ性を感じました。彼女たちが、差別的な言葉や社会の偏見があるにもかかわらず、自らの尊厳を守って自分らしく生きようとする強さに感銘を受け、この思いに光を当てたいと強く思うようになったのです。この資料が、映画化の決定打になりました。

作品の見どころは？

法廷での証言シーンです。作品の肝となる重要な場面は撮影の終盤に撮るのが定石。ところが、今回はさまざまな事情が重なって早い段階で撮ることになったのです。主演の中川さんはトランスジェンダーの当事者で、映画出演は初。そんな彼女の証言シーンは、演技を超えたドキュメンタリーのような力強さがありました。その場にいた全員のスイッチが同時に入り、全体が一つになったのを感じた忘れられない瞬間になりました。痛いくらいピーンと張りつめた緊張感と静けさを、ぜひスクリーンで感じてほしいですね。

作品には、群馬のみなさんが見慣れた景色がいつもとは違った姿で登場しています。違和感なく裁判所や警察署に見えるから不思議でしょう？映画人ならではの「切り取り方」にも注目していただきたいと思います。

取材を通じて感じたことや 作品に反映させたことは？

現代を生きるトランスジェンダーの方々に取材し、手術に至るまでの葛藤やアイデンティティを表現することの難しさ、展望などを伺いました。時代は変わっても根本的な課題は変わっていないことを痛感しましたね。また、前橋で40年以上にわたって経営を続けてきたグイバーのママさんにもお話を聞きました。事件当時に近い時代の話を書く中で感じた当時の空気感を作品に盛り込みました。

現場でのハプニングや裏話は？

オープニングシーンの撮影前から雨が降り続き、一時は中断も頭をよぎりました。ところが、直前に雨が止んだのです。カメラを回すと、濡れた路面に夜の艶やかさが反射されて思い描いていた通りの雰囲気になりました。もともと本番前に道路に水を撒こうかと考えていたくらいなので、絶妙なタイミングで降った「恵みの雨」だったのです。

映画の世界観を形づくるうえで欠かせなかったのが、旧高崎スズラン。昭和の銀座の老舗百貨店を彷彿させる貴重な建物で、その佇まいがロケ地の決め手となったほどです。しかしその後、解体が計画されていたことを知り撮影できるかどうか気をもみました。結果的に解体直前に撮影が実現。胸をなでおろしました。

観客に伝えたいメッセージは？

「私たちはずっといました。これからもいます」というキャッチコピーは、マイノリティの継続的な存在と社会から排除されない権利への強い想いを込めたメッセージです。当事者へはエールを、当事者以外にはマイノリティたちと理解し合い、共に生きる大切さを伝えたいですね。一人ひとりが自分らしく生きられ、それぞれの本当の幸せを追求できる社会になれば、と願っています。

今後、どのようなテーマで作品を撮りたいですか？

これまで、社会の中で声を上げにくい人たちに光を当てた作品を製作してきました。今後もその路線は変わりません。具体的なテーマはまだ固まっていませんが『ブルーボーイ事件』で感じた人々の尊厳と希望を描く路線は、今後も追求していきたい。さらに広い視点で誰もが隅に追いやられることなく、争いなく生きられる世界を描く作品を作りたいと考えています。「平和」という言葉は陳腐に聞こえるかもしれませんが、みんながより生きやすく、住みやすい世界を実現するための作品を追求したいですね。

ロケ地としての群馬の魅力は？

都内からのアクセスの良さや、ロケーションの多様性。今回の作品で最も生きたのが「昭和の風景」です。群馬の特色は、新しいものと古いものが共存し見事に調和しているところ。「昭和」が今でも普通に日常の中に生き続けていることに加え、その魅力的な風景が密集している。これらは他の地域にはない特別な価値だと感じました。また、地域の人や行政が協力的で、食事が安くて美味しいことも魅力です。

前橋

まえばし

MAEBASHI



① 泉食堂

アクセス

新前橋駅より車約7分

住所

前橋市問屋町2-13-15



映画冒頭で、一斉捜査前の刑事達が食事をしているシーン。お店の懐かしい雰囲気を活かして撮影されました。麺類・丼・定食など、豊富なメニューをリーズナブルに楽しめる昭和レトロなお店です。

② G FACE CAFE

アクセス

前橋駅より車約5分

住所

前橋市大手町1-1-1



群馬県庁昭和庁舎1階にある、ウィーンをイメージした趣のあるカフェ。歴史ある建物でゆったりとした時間を過ごせます。サチが恋人の若村と食事に來たレストランとして撮影されました。

③ 銀座通り

アクセス

中央前橋駅より徒歩6分

住所

前橋市千代田町4丁目付近



弁護士の狩野とサチが初めて会うシーン。前橋市の中心街にある全長約 570 メートルと非常に長い銀座通りには、飲食店やアパレル店など多種多様なお店が並び、お買い物を楽しめます。

④ 県民会館通り

アクセス

前橋駅より車約5分

住所

前橋市日吉町1-1-7付近



サチがバー「アダム」から帰るシーンが撮影されました。裁判所の外観として撮影された群馬県民会館へと続く、趣のある通りです。通り沿いには飲食店や洋菓子店などが並び、近くには群馬県立図書館があります。

5 上電横丁

アクセス

中央前橋駅より徒歩約1分 前橋市城東町4丁目付近

住所



上毛電鉄「中央前橋駅」から線路沿いに続く、昭和の風情が残る商店街で、居酒屋などが軒を連ねます。「テラーサチ」近くの道のシーンが撮影されました。

6 宮城公民館

アクセス

樋越駅より車約9分

住所

前橋市鼻毛石町1711-8



元々は映画冒頭に出てくる警察署設定のロケ地候補とされていましたが、ロケハンをした際に「火葬場でいけるかもしれない」となり、実際に火葬場として撮影されました

伊勢崎

いせさき

ISESAKI



7 伊勢崎市あずま支所

アクセス

国定駅より車約9分 伊勢崎市東町2668-1

住所



物語の重要な場面となる裁判のシーン。議場に大規模な建て込みをすることで、臨場感のある法廷を再現しました。※現在、議場に傍聴席のセットなどは残っていません。議場の中をご覧になりたい方は、あずま支所庶務課へお声がけください。



高崎

たかさき

TAKASAKI

8 きゃらばん

アクセス

北高崎駅より徒歩約10分 高崎市昭和町209



サチが働く喫茶店として撮影されました。1976年創業、昭和の雰囲気を残す趣のあるお店です。マスターがこだわりぬいた自家焙煎のコーヒーが自慢です。

9 高崎市柳川町

アクセス

高崎駅より徒歩15分 高崎市柳川町内



高崎電気館付近の細い路地を、ネオンが光るディープな裏路地として、客引きのシーンが撮影されました。実際の路地にも飲食店が軒を連ねており、映画と同じような昭和の雰囲気が漂っています。

伊勢崎市
あずま支所

撮影のこぼれ話

高崎市
宮元町

10 高崎市宮元町

アクセス

高崎駅より徒歩10分 高崎市宮元町内



映画冒頭の一斉捜査のシーン。街に装飾を施し、劇用車を配置するなどして、1960年代の銀座の様子が高崎で再現されました。撮影は道路を全面的に封鎖するなど、大規模に行われました。



3人の証言者が立つ法廷に選ばれたのがこの場所です。主演の中川さんの真に迫る演技にベテラン俳優陣がインスパイアされ、現場は本物の法廷さながらの緊迫感に包まれました。



劇用車は、博物館に飾ってある展示品ではなく、桐生の愛好家が大切にメンテナンスして乗り続けている愛車たちです。群馬だから撮れたシーンの一つ。

2025年
11.14 全国公開

ブルーボーイ事件

実在の裁判記録を基に、性別適合手術をめぐる深い社会の闇と、そこに抗う当事者たちの声を丁寧に掘り下げる意欲作。飯塚花笑監督自身の思いと、リアリティある演出が重なり、感動と考察を呼ぶ作品となっています。

時代背景と事件の発端

1960年代、東京オリンピック開催前の混沌とした時代。急速な都市の浄化を図る警察は、売春や性風俗に対する取り締まりを強化します。しかし、戸籍上は「男性」のまま性別適合手術を受けた通称「ブルーボーイ」と呼ばれる人々は、売春防止法の対象外。そこで、警察は優生保護法を持ち出し、手術を行った医師・赤城（山中崇）を逮捕し、手術そのものの合法性を問い直す裁判へと発展します。

主人公サチの存在

一方、東京の喫茶店で働くウェイトレス・サチ（中川未悠）は、手術を受けた一人。恋人・若村（前原滉）とのプロポーズの直後、弁護士・狩野（錦戸亮）が現れ、赤城の弁護のために裁判の証人として協力を依頼します。

法廷を舞台に

裁判では、「ある人間の幸せか不幸か」が中心議題に。ブルーボーイたちが証言台に立ち、当時の差別や偏見にさらされながらも、自らの尊厳をかけて立ち向かう姿が描かれます。



実話に基づく重厚な社会派ドラマ

性別適合手術を巡る法的・社会的議論を通じて、1960年代の性的マイノリティと社会の関係を克明に描き出します。



当事者の声に向き合った
キャスティング

トランスジェンダー当事者を主演に起用し、リアリティと説得力を追求した強い意志が込められています。

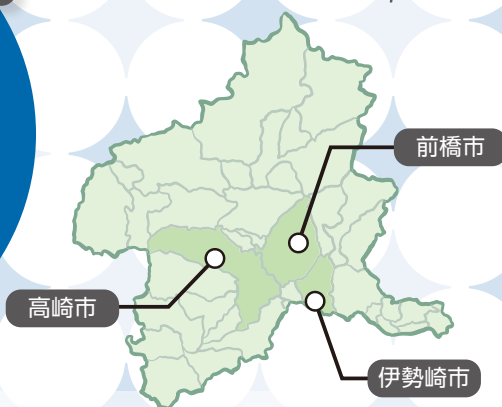


現代社会にも通じる
普遍的なテーマ

差別や偏見を超えて「誰もが幸せになる権利がある」ことを訴える、本作は現代にも大きな共鳴を呼びおこします。

ロケ地一覧地図

Location map



BLUEBOY
ブルーボーイ × ぐんま
GUNMA

舞台巡りや
観光のお供に！
GunMaaS
INNOVATE YOUR TRIPS

GunMaaS（グンマース）とは、群馬県内での交通手段の「検索」「予約」「決済」がひとつにまとまったサービスです。お使いのスマートフォンからご利用いただけます。



※GunMaaSは、スマートフォン専用のwebサービスです。
対象ブラウザは最新版のSafari、Google Chromeです。

発行・お問い合わせ先

群馬県 産業経済部 戦略セールス局
eスポーツ・クリエイティブ推進課内 ぐんまフィルムコミッション

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1丁目1-1 TEL 027-898-3695
E-mail gunma-fc@pref.gunma.lg.jp HPアドレス <https://www.gunma-fc.jp>



公式HP



公式X

